

けいじばん

○臨時活動日のご案内；2月13日（日）を木工の臨時活動日とし参加希望者を募ります。森林館駐車場9時40分集合、広場テーブル又はスツール製作。携行品：のこぎり、あればチェーンソー、大工道具、弁当。道具類は無くても参加可能です。希望者はチェーンソー点検・目立て練習も可能。参加希望者は2月10日迄に上記アドレスに連絡下さい。
○定例活動日のご案内；3月13日(日)は定例活動日です。森林館駐車場9時40分集合。主な活動メニューは・きのこ植菌・植生調査（樹木・林床）・林内周遊調査・案内板設置・今後の活動について意見交換など。
○炭焼き見学・実習のご案内；県民の森炭焼き窯の次回窯出し窯入れが2月14日頃に予定されています。見学又は体験実習希望の方は上記アドレスにご連絡下さい。確定日時をお知らせします。
○ちば里山センターURL；<http://www.chiba-satoyama.net> イベントの紹介等ありますので閲覧ご活用下さい。パソコンない方は近くの図書館などでも閲覧可能です。当会上記ホームページも月毎に更新されていますので閲覧下さい。

かつどうのきろく

1月30日 日曜日（晴）参加会員16名、森林研究センター小平室長他1

[朝県民の森炭焼き窯の窯出し作業
見学のため30分遅れて作業開始]

○マダケ林整備

午前中全員でマダケ林整備、マダケを残し樹木を除伐、除伐したコナラは玉切りし、3月に予定しているシイタケ植菌の原木に。



(マダケを残し樹木を除伐)



(除伐コナラは玉切りしほだ木に)

○安全対策ミーティング[次頁に要旨]

昼食後作業安全についてミーティング、小平顧問から安全対策や森づくりの進め方について、基本的な助言があり、会員からは班編成や具体的な作業の仕方や活動プログラムなどの提言あり有益なミーティングでした。安全マニュアルはこの日の議論と12月以来の役員会討議経過をふまえ、再編集します。



(額を集めて安全作業の意見交換)

備考) 豊英島のコナラは50年以上高齢化しているため萌芽更新が可能か、実生の成長に期待するかを選択のため調査するもの。

[午後はマダケ林整備作業班、コナラ林調査準備班、落葉掻き調査班、薪割り班の4班に分かれて作業]

○コナラ林更新調査準備

15年11月伐採したコナラ更新林の萌芽更新と実生発生生育状況調査のため萌芽観察株3株を選定し、実生調査区画1×5m²3箇所をビニールテープで区画した。今後コナラ林更新状況調査チームを編成し追跡調査を行います。

○落葉掻き試行調査

コナラ林の落葉掻きによる林床植生の変化を試行的に観察調査するため、試験区、対照区それぞれ10m²×10m²を区画し、調査区は熊手で落葉掻き。落葉の下の堆積腐葉土は残し、蕾をもつシュンランなどの林床植物を損傷しないよう注意深く作業した。落葉は秤量し、利用のため木陰に集積しブルーシート被覆。100m²当たり落葉収集量105kg、従って1m²当り約1kg。今後林床植生調査チームを編成し、追跡調査を行います。



(落葉掻きは程よい足腰の運動)

備考) 落葉利用のため里山で行われていた農家の落葉掻きでは、腐葉土を含む全落葉掻きが一般的であるが、今回調査では腐葉土を残す方法とした。

○コナラ残材の薪割り

寒さのせいのかこの収量は減ったものの、昼食時は具沢山のきのこ汁で体を温めました。

天候に恵まれ、森づくりも安全打合せも班別の調査準備などの作業も順調に実施出来ました。参加の皆様お疲れ様。

3月13日千年の森ご一行様歓迎に備え、落葉の陰にはシュンランが蕾を膨らませ開花を待っています。

安全対策ミーティングの要旨

長村副代表 説明要旨	○昨年12月の伐採作業以来作業安全について意見噴出し議論を重ね、皆で守るルールが必要と考え「たたき台」を作った。基本的なことは黄色表紙の「あんぜん手帳」に網羅されているが広葉樹の伐採には特に難しさと危険があり、千年の森の実践ルールとしてマニュアルを作る。完成版は編集で大幅に体裁を変えるがその前に率直な意見交換をしたい。
小平顧問 助言の要旨	○10月の伐採作業時に厳重注意したが、事故が起こらないのが不思議なほど危険に感じた。作業開始前の安全確認、作業時の役割分担、伐採時の合図など当然必要なことが欠けていた。この会にはベテランもいるが初心者、未経験者を含む混成でもありそれなりの配慮が必要。自己責任では済まない。一旦事故が起これば活動も会の存続も出来なくなる。 ○広葉樹の伐採は非常に難しく危険度も高いので伐採者は段階を踏みながらレベルアップが必要。伐採者は基本的に忠実に、安全に対する配慮・対策を厳格に行うこと。マニュアルは過信しすぎない事。 ○森の整備と活用は一体のものである。活用の出口が無いのに伐採のみ進めると無理が出る。急に森が明るくキレイになって立派ではあるが、実力に応じて無理をせずに、ゆっくり年月をかけて森づくりを進めるゆとりも必要。マダケ林に樹木の混在ゼロの完全純粋のマダケ林を目指す必要も無い。
会員の主な 意見	○豊英島のコナラは樹高もあり経験的には2方向からのロープがけによる方向調整法が最も架かり木などのリスクが少ない。この方法を“八の字伐採法”として千年の森に定着させたい。 ○伐採班は多すぎないこと。2班程度が実力相応で無理が無い。○班の人数は多すぎないこと。ロープ使用の場合で7・8人。○チェーンソー伐採以外に手切り班もあってよい。 ○伐採がメイン作業のときも、必要に応じて伐採以外の調査などのプログラムも認めて欲しい。調査したいことがあってもメイン作業が終わると3時過ぎて調査には遅すぎる。 ○ヘルメット着用遵守、ヘルメット忘れたら伐採班から外れること。 ○伐採後、玉切り以外の先端部の木をもう少し細かく処理すれば森を綺麗に出来るし仕事が増えて全員の達成感もある。○(小平) そのように細かく処理すればカブト虫など育つ可能性もあり、楽しみながら森づくりができる。

1月30日 千年の森

鈴木敦会員

豊英湖のダムを渡るといつも多くの釣り人がいるのに今日は少ないようだ。当たり前ですが、大寒の中での遊びはそれなりにたいへん覚悟のいるものです。豊英湖への道筋に猪防護の電気金網が付けられており、千葉県秘境を感じる。我われの千年の森は落葉したコナラ林が迎えてくれる。中央広場が明るくなった感じがするのは私だけではないと思う。今日の作業は真竹林整備のため竹を残して雑木を伐採することになりコナラを主にカシの常緑樹を伐採する、伊藤さんの注文で案内板用の適当な樹木を選別し中央広場に運ぶ。

昼食後の作業は、三班に分かれて作業となった。私はコナラの実生調査の班で1×5メートルのフィールドを三箇所を杭とロープで囲う。3月になれば実生のコナラの数を調べたり他の樹木の実生も調査できる楽しみがあります。いずれ一般公開の際はこのような植物学的な数字があるといいへん説明に迫力があるのではと思う。

森の大切さは我われの共通認識だと思いますが、その整備はたいへんな作業で簡単ではありません。しかし我われボランティアの力を少しでも活かして地球環境を守ることに少しでも貢献したいと思っております。

炭焼き見学記

小又哲会員

○1月30日活動開始前に、ほぼ全員で、清和県民の森炭焼き窯の窯出し準備を見学したので炭焼き見学を要約します。

<炭焼きの概要>職員の方のレクチャーで、いかに炭のことを知らないかを痛感、今まで伏せ焼き、ドラム缶等経験しているが、全く理論の武装がなかった。それに比べて今回は、○窯の大きさは質問し忘れたが、中に入った時の目測でほぼ内面積6畳程度か?この規模で、1窯500~800キロの炭が焼けるとのこと

<炭焼きの詳細>○収量は、樹種によるとのこと、かしなど堅い素材なら40俵、600キロ程度○窯への材料の詰め込みは、お茶炭用の細い木は奥に入れ、長時間焼いて良質のものを得るとのこと○その外側にかし、くぬぎ等品質のよいもの、順次桜、しい、あかめがしわ等良くない素材を入れ、それを釜口で燃やして奥へ炎を送り、いい素材を酸欠状態で炭化させるとのこと○火止めは、1100度、そのまま3~4日放置して100度まで、温度が下がるとのこと○炭の体積は、水分が抜けて炭化することで、素材の1/5程度に減少するとのこと

<今回の炭焼き>○着火した日時は、質問失念○今回は、20日に火止、1月30日現在、窯の中の温度は40度位だったとのこと<おみやげのことなど>豊英島の活動を終え、次の炭焼きのための準備を終えた窯を見学した後、当日焼き上がった1本1m位の炭をお土産に頂き、大層感激しました。